

大同特殊鋼株式会社 (5471 JP)

売上数量の回復と迅速な販売価格は正による収益貢献は、FY23 下期にさらに顕著に。

決算サマリー

大同特殊鋼(5471)が2023年4月28日に発表したFY22通期決算(3月期)は、売上高578,564百万円(前期比9.2%増)、営業利益46,986百万円(同27.1%増)となり、過去最高益を更新した。鉄スクラップを中心に原材料価格は想定以上に落ち着きを見せ、年度末にかけて価格是正が徐々に進行した。FY22通期売上高は概ね当初会社予想570,000百万円(同7.6%増)で着地したが、営業利益は予想の45,000百万円(同21.7%増)を上回って着地した。

原材料・エネルギー価格の高騰によりFY22の売上原価は8.8%増(前期比)の476,224百万円となったが、売上総利益率は販売価格は正により0.3ppt増加(同)した。下期単独では、営業利益は23,761百万円(同33.3%増)となり、会社予想の21,775百万円(同22.2%増)を上回った。予想差の要因としては、売上数量の減少の予想との差異-4,200百万円があったものの、価格是正による増益5,800百万円により十分相殺された。また、鉄スクラップ価格による影響が予想を2,000百万円下回った。その結果、原燃料市況による影響は下期営業利益に対し約600百万円の押し上げ要因となった。

FY22鋼材売上数量は、前期比13.4%減の1,085,000トンとなった。第3四半期に一時的な回復を見せたもののFY22を通して長期化した自動車減産が影響した。さらに、半導体関連や電子部品関連の在庫調整により、ステンレス鋼の売上数量が減少した。しかしエネルギー・原材料価格高騰を反映した価格是正の進捗により、FY22通期売上高は前期比で9.2%増加した。また、FY22営業利益の押し下げ要因となった売上数量の減少の影響(-19,100百万円)および原燃料市況によるコスト増(-56,100百万円)は、ともに価格は正による増益(70,700百万円)でほぼ相殺された。

さらに、内容構成の良化は、FY22を通じて増益に貢献した。特に自由鍛造品においては、将来的な需要を見越して2016年以降投資をしてきた結果が実った形となった。自由鍛造品の売上増およびステンレス鋼の内容構成の良化は、FY22通期営業利益を約20,000百万円押し上げた。以上の結果、FY22営業利益率は前期比で1.1ppt改善し、8.1%となり、第4四半期単独では、6.5%(前期比0.7ppt増・前四半期比2.9ppt減)となった。

FY22のフリーキャッシュフローは、FY21の-31,300百万円から改善し、2,500百万円となった。営業キャッシュフローの改善が寄与した。原材料・エネルギー価格の急騰は増益と在庫圧縮(約25,200百万円減)により相殺された。その結果、運転資金の支出はFY21の77,600百万円からFY22の39,600百万円に減少した。FY22の営業キャッシュフローは、FY21の-16,700百万円から大幅に改善し、22,600百万円となった。

エグゼクティブサマリー

- 大同特殊鋼が2023年4月28日に発表したFY22通期決算(3月期)は、売上高578,564百万円(前期比9.2%増)、営業利益46,986百万円(同27.1%増)となり、過去最高益を更新した。
- 自動車生産の低迷により鋼材売上数量は、前期比13.4%減となった。原材料やエネルギーの急激な価格上昇に対応した価格は正により、FY22売上高は前年比9.2%増加となった。
- 自由鍛造品の売上増およびステンレス鋼の内容構成の良化は、FY22通期営業利益を約20,000百万円押し上げた。
- 同社は、FY23上期業績予想の売上高売上高290,000百万円(前年同期比2.9%増)、営業利益19,000(同-18.2%減)と予想している。FY23通期業績予想は売上高600,000百万円(前年比3.7%増)営業利益47,000百万円(同0.0%増)としている。
- FY23通期営業利益の予想は前年同期比でほぼ横ばいだがFY22に、為替影響(特殊鋼鋼材、機能材料磁性材料、自動車部品・産業機械部品の各セグメントで発生およびグループ会社における為替予約影響含む)とNi価格が急速に上昇したことによる売価とコストへの反映にタイムラグなど、一過性の増益要因があり、これらはFY23には発生しないと考えている。しかしながら、自動車生産の増加を受けて、数量の増加が見込まれること、販売価格の値上げが浸透すること(エネルギーチャージや工具鋼の値上げ含む)で増益としては同レベルの計画となっている。
- FY23は現中計の最終年度に当たる。中計の営業利益目標であった40,000百万円以上を1年前倒しでFY22に達成した。さらに、同社が戦略製品と位置付ける自由鍛造品や高機能ステンレスを中心に内容構成が大きく改善したことは注目に値しよう。その結果、FY22のROEは中計の目標値である8%を上回る10.4%を達成した。
- FY23の予想配当金は一株あたり230円(前年比0%増)で、FY23の業績予想に基づく配当性向は30.6%となる。

大同特殊鋼 (5471 JP): 業績サマリー							
(百万円)	FY21		FY22				通期 vs. 通期予想 (%)
	上期	通期	上期	通期	YoY (%)	通期予想	
鋼材売上数量 (トン)	634,000	1,253,000	540,000	1,085,000	-13.4	1,090,000	-0.5
売上高	255,224	529,667	281,857	578,564	9.2	570,000	1.5
売上原価	209,209	437,556	230,921	476,224	8.8	N/A	N/A
原価率 (%)	82.0	82.6	81.9	82.3	-0.3ppt	N/A	N/A
売上総利益	46,015	92,111	50,935	102,340	11.1	N/A	N/A
GPM (%)	18.0	17.4	18.1	17.7	+0.3ppt	N/A	N/A
販管費	26,858	55,128	27,710	55,353	0.4	N/A	N/A
販管費率 (%)	10.5	10.4	9.8	9.6	-0.8ppt	N/A	N/A
営業利益	19,156	36,982	23,225	46,986	27.1	45,000	4.4
OPM (%)	7.5	7.0	8.2	8.1	+1.1ppt	7.9	+0.2ppt
経常利益	20,556	39,200	24,092	48,122	22.8	46,000	4.6
特別損益	-424	1,546	-407	1,241	-19.7	N/A	N/A
法人税など	-5,643	-11,120	-4,225	-10,867	N/A	N/A	N/A
当期利益	12,840	26,894	18,294	36,438	35.5	34,000	7.2

Source: Nippon-IBR based on Daido Steel's earnings results presentation materials
* NP attributed to the parent's shareholders

FY22 セグメント別業績

主要 3 セグメントの FY22 の業績は以下のとおりである。

特殊鋼鋼材

[FY22 売上高 214,770 百万円 (前年比 8.6%増) / 営業利益 9,771 百万円 (前年比 155.3%増) / OPM 4.5% (同 2.6ppt 増)]

特殊鋼鋼材の FY22 の決算は売上高 214,770 百万円 (前年比 8.6%増) に対し、売上数量が前年比 13.4%減となったものの、エネルギーコストの急激な上昇や原材料価格の上昇に対する価格是正が進み、FY22 後半には同社の予想よりも速いペースで進展したことから、営業利益は前年比で 2.5 倍の 9,771 百万円と急伸した。

価格是正の寄与 (+33,700 百万円) により、エネルギー・原材料費高騰 -21,100 百万円、および販売数量の減少による減益要因 -5,500 百万円を相殺し、営業利益は前年比で 6,000 百万円押し上げられる形となった。鉄スクラップのスライドギャップ (顧客同意の価格改定を実施するまでのタイムラグ) は年間を通じて改善し続け、FY21 の -4,500 百万円から、FY22 には +1,400 百万円となり、約 5,900 百万円改善した。四半期ごとの推移では、FY22 第 1 四半期は -700 百万円 (前四半期比 -200 百万円) / 第 2 四半期は 600 百万円 (前四半期比 +1,300 百万円) / 第 3 四半期は 700 百万円 (前四半期比 +100 百万円) / 第 4 四半期は 800 百万円 (前四半期比 +100 百万円) となった。

機能材料・磁性材料

[FY22 売上高 219,724 百万円 (前年比 11.2%増) / 営業利益 24,286 百万円 (同 8.9%減) / OPM 11.1% (同 2.4ppt 減)]

機能材料・磁性材料セグメントの FY22 決算は、売上高 219,724 百万円 (前年比 11.2%増)、営業利益 24,286 百万円 (同 8.9%減) となり、営業利益率は 2.4ppt (前年同期比) 縮小し 11.1%となった。セグメント営業利益の減益要因は、1) 自動車関連向けステンレス鋼の出荷数量の減少およびハードディスクメーカーなどの顧客による在庫調整により、売上数量が減少 (-10,600 百万円)、2) 固定費の増加 (-2,100 百万円) は半導体製造装置向けの堅調な需要により内容構成が良化し一部は相殺された (+3,800 百万円)、である。また、ニッケルなどの原材料価格高騰による減益 (-25,800 百万円) は、販売価格是正による増益 (+¥32,400 百万円) により相殺された。

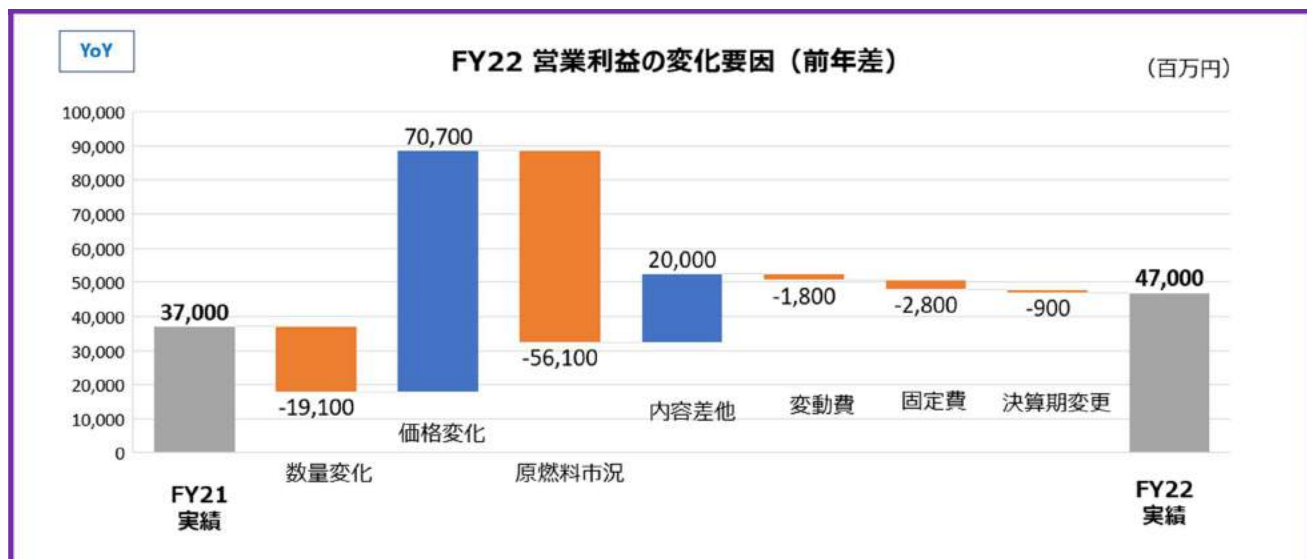
自動車部品・産業機械部品

[FY22 売上高 101,232 百万円 (前年比 9.4%増) / 営業利益 8,217 百万円 (同 65.0%増) / OPM 8.1% (同 2.7ppt 増)]

自動車部品・産業機械部品セグメントの FY22 決算は、売上高 101,232 百万円(前年比 9.4%増)、営業利益 8,217 百万円(同 65.0%増)となった。自動車部品の生産縮小に伴い型鍛造品の売上数量は減少したが、自由鍛造品は特に海外のエネルギー関連、環境関連の船用バルブの需要が旺盛であり、加えて航空機関連も回復を見せた。以上の結果、セグメント営業利益 (前年同期比 3,200 百万円増) に内容構成の良化が +17,700 百万円貢献し、エネルギー・原材料価格高騰による減益 (-9,200 百万円) および数量減による減益 (-3,000 百万円) 要因を相殺する形となった。

セグメント別売上高、営業利益、営業利益率 (半期ごと、及び通期)								
(百万円)		FY21			FY22			通期 YoY (%)
		上期	下期	通期	上期	下期	通期	
特殊鋼鋼材	売上高	93,168	104,635	197,803	102,740	112,030	214,770	8.6
	営業利益	1,441	2,386	3,827	4,223	5,548	9,771	155.3
	OPM (%)	1.5	2.3	1.9	4.1	5.0	4.5	+2.6ppt
機能材料・磁性材料	売上高	94,756	102,848	197,604	109,566	110,158	219,724	11.2
	営業利益	13,921	12,729	26,650	13,437	10,849	24,286	-8.9
	OPM (%)	14.7	12.4	13.5	12.3	9.8	11.1	-2.4ppt
自動車部品・産業機械部品	売上高	46,521	45,983	92,504	49,485	51,747	101,232	9.4
	営業利益	3,127	1,852	4,979	3,362	4,855	8,217	65.0
	OPM (%)	6.7	4.0	5.4	6.8	9.4	8.1	+2.7ppt
エンジニアリング	売上高	8,732	9,482	18,214	8,336	10,620	18,956	4.1
	営業利益	-709	-568	-1,277	412	1,013	1,425	n/a
	OPM (%)	n/a	n/a	n/a	4.9	9.5	7.5	n/a
流通・サービス	売上高	12,047	11,493	23,540	11,727	12,154	23,881	1.4
	営業利益	1,387	1,447	2,834	1,816	1,477	3,293	16.2
	OPM (%)	11.5	12.6	12.0	15.5	12.2	13.8	+1.8ppt
合計	売上高	255,224	274,443	529,667	281,857	296,707	578,564	9.2
	営業利益	19,156	17,826	36,982	23,225	23,761	46,986	27.1
	OPM (%)	7.5	6.5	7.0	8.2	8.0	8.1	+1.1ppt

Source: Nippon-IBR based on FY21 & FY22 Earnings Results Materials published by Daido Steel



Source: Nippon-IBR based on FY22 Earnings Results Materials published by Daido Steel



Source: Nippon-IBR based on FY22 Earnings Results Materials published by Daido Steel

FY23 通期予想

FY23 の会社業績ガイダンスは、上期売上高 290,000 百万円 (前年同期比 2.9%増)、営業利益 19,000 (同-18.2%減)、通期売上高 600,000 百万円 (前年比 3.7%増) 営業利益 47,000 百万円 (同 0.0%増)。FY23 の年間配当金は 1 株あたり 230 円で、配当性向は 30.6%と予想している。FY23 通期営業利益の予想は前年比ではほぼ横ばいだが、為替影響 (特殊鋼鋼材、機能材料磁性材料、自動車部品・産業機械部品の各セグメントで発生およびグループ会社における為替予約影響) と N i 価格が急速に上昇したことによる売価とコスト面の反映にタイムラグなど、一過性の増益要因があり、これらは FY23 には発生しないと考えている。しかしながら、自動車生産の増加を受けて、数量の増加が見込まれること、販売価格の値上げが浸透すること (エネルギーサーチャージや工具鋼の値上げ含む) で損益としては同レベルの計画となっている。

今期の会社予想は以下のような前提に基づいている。

1. 自動車生産の回復により、鋼材売上数量は 44,000 トン増の 1,129,000 トン (前年比 4.0%増) になると予想する。半期ごとの推移で見ると、上期 544,000 トン (前年同期比 0.7%増 / FY22 下期比 0.2%減)、下期 585,000 トン (同 7.3%増 / FY23 上期比 7.5%増) となっている。前提となる、同社の自動車生産予想は CY23 上半期 12.4 百万台 (CY22 下半期比 0.0%)、下半期 12.7 百万台 (CY23 上期比 2.4%増)、CY23 通期 25.1 百万台 (前年比 3.3%増) とみている。ちなみに、日系 OEM メーカーによる FY23 下半期の国内自動車販売台数の予想は約 14.0 百万台としている。
2. エネルギー価格は、同社に電力を供給している中部電力との価格決定から約 3~6 ヶ月のタイムラグを置いて業績に反映される。したがって、エネルギー価格の値上げ分は FY23 第 2 四半期以降に明らかになるとみられる。同社は、FY23 にエネルギー価格高騰によるマイナス影響として -7,000 百万円を予想している。また、同社はニッケル価格高騰によるマイナス影響 (前年比 -6,000 百万円) があると仮定しているが、売上価格の是正 (+14,000 百万円) によって相殺されるとみている。

業績予想									
(百万円)	FY21			FY22			FY23 (予)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期(予)	下期(予)	通期(予)
鋼材売上数量 (トン)	634,000	619,000	1,253,000	540,000	545,000	1,085,000	544,000	585,000	1,129,000
売上高	255,224	274,443	529,667	281,857	296,707	578,564	290,000	310,000	600,000
営業利益[OP]	19,156	17,826	36,982	23,225	23,761	46,986	19,000	28,000	47,000
OPM (%)	7.5	6.5	7.0	8.2	8.0	8.1	6.6	9.0	7.8
経常利益[RP]	20,556	18,644	39,200	24,092	24,030	48,122	20,000	28,500	48,500
特別損失	-424	1,970	1,546	-407	1,648	1,241	n/a	n/a	n/a
法人税等	-5,643	-5,477	-11,120	-4,225	-6,642	-10,867	-7,000	-9,500	-16,500
純利益*	12,840	14,054	26,894	18,294	18,144	36,438	13,000	19,000	32,000

Source: Nippon-IBR based on Daido Steel's earnings results presentation materials
* NP attributed to the parent's shareholders

原燃料市況の前提			FY20	FY21	FY22		FY23 (予)
			実績	実績	前提	実績	前提
鉄スクラップ	H2	¥000/t	24.9	47.6	61.5	46.3	50.0
	Factory Bundle		28.9	53.9	66.5	50.7	53.0
ニッケル	LME	\$/Lb	6.8	9.3	14.0	11.6	12.0
原油	Dubai Brent	\$/bbl.	45.8	76.6	100.0	90.3	85.0
為替レート	TTM	¥/\$	107.1	113.4	120.0	135.5	130.0

Source: Daido Steel FY22 Earnings Results Presentation



Source: Nippon-IBR based on FY22 Earnings Results Materials published by Daido Steel

FY23 セグメント別業績予想

主要 3 セグメントの FY23 の業績予想は以下のとおりである。

- 特殊鋼鋼材

[FY23 売上高 232,000 百万円 (前年比 8.0%増) / 営業利益 13,500 百万円 (同 38.2%増) / OPM 5.8% (同 1.3ppt 増)]

特殊鋼鋼材セグメントの FY23 上期の業績予想は売上高 112,000 百万円 (前年比 9.0%増)、営業利益 5,000 百万円 (同 18.4%増)、FY23 下期業績予想は売上高 120,000 百万円 (同 7.1%増)、営業利益 8,500 百万円 (同 53.2%増) と予想している。FY23

の同セグメントの業績予想は以下のような背景に基づいている。1) グローバル全体での自動車生産量の回復に伴い、FY23 下期に向けて鋼材販売数量が前年比ベースで伸長すること、2) エネルギー・原材料費高騰を反映させた価格是正によりよりマージンが最適なレベルにあること、としている。加えて、3) FY23 下期に工具鋼の約 5~15%の販売価格改定が実現することも要因としている。スライドギャップは、FY22 のプラス要因の剥落により、FY22 の 1,400 百万円から前年比 2,500 百万円減の-1,100 百万円（上期-900 百万円、下期-200 百万円）へと後退すると予想している。

- 機能材料・磁性材料

[FY23 売上高 220,000 百万円（前年比 0.1%増） / 営業利益 21,500 百万円（同 11.5%減） / OPM 9.8%（同 1.3ppt 減）]

同社はステンレス鋼の在庫調整が下期まで続くため、FY23 の営業利益は前年比で減少すると予想している。その背景には、1) FY22 の自動車減産などにより、自動車向けステンレス鋼の在庫がサプライチェーン全体で積み上がっていること、2) シリコンサイクルの低迷により、半導体装置用のステンレス鋼の需要が低迷する可能性などがある。同社は、上期の売上高 105,000 百万円（同 4.2%減）、営業利益 9,000 百万円（同 33.0%減）とし、下期の売上高¥115,000 百万円（同 4.4%増）、営業利益 12,500 百万円（同 15.2%増）を予想している。

- 自動車部品・産業機械部品

[FY23 売上高 106,000 百万円（前年比 4.7%増） / 営業利益 8,500 百万円（同 3.4%増） / OPM 8.0%（同 0.1ppt 減）]

同セグメントでは自由鍛造品の着実な成長を予想している。上期の売上高を 52,000 百万円（前年比 5.1%増）、営業利益を 3,000 百万円（同 10.8%減）、下期の売上高 54,000 百万円（同 4.4%増）営業利益 5,500 百万円（同 13.3%増）と予想している。下期に自動車生産が増えることで、エンジンバルブ関連など自動車部品の販売数量増加を見込んでいる。

セグメント別売上高、営業利益、営業利益率											
(百万円)		FY22				FY23 (予)					
		上期	下期	通期	YoY (%)	上期	YoY (%)	下期	YoY (%)	通期	YoY (%)
特殊鋼鋼材	売上高	102,740	112,030	214,770	8.6	112,000	9.0	120,000	7.1	232,000	8.0
	営業利益	4,223	5,548	9,771	155.3	5,000	18.4	8,500	53.2	13,500	38.2
	OPM (%)	4.1	5.0	4.5	+2.6ppt	4.5	+0.4pt	7.1	+2.1ppt	5.8	+1.3ppt
機能材料・磁性材料	売上高	109,566	110,158	219,724	11.2	105,000	-4.2	115,000	4.4	220,000	0.1
	営業利益	13,437	10,849	24,286	-8.9	9,000	-33.0	12,500	15.2	21,500	-11.5
	OPM (%)	12.3	9.8	11.1	-2.4ppt	8.6	-3.7ppt	10.9	+1.1ppt	9.8	-1.3ppt
自動車部品・産業機械部品	売上高	49,485	51,747	101,232	9.4	52,000	5.1	54,000	4.4	106,000	4.7
	営業利益	3,362	4,855	8,217	65.0	3,000	-10.8	5,500	13.3	8,500	3.4
	OPM (%)	6.8	9.4	8.1	+2.7ppt	5.8	-1.0ppt	10.2	+0.8ppt	8.0	-0.1ppt
エンジニアリング	売上高	8,336	10,620	18,956	4.1	9,000	8.0	10,000	-5.8	19,000	0.2
	営業利益	412	1,013	1,425	n/a	500	21.4	500	-50.6	1,000	-29.8
	OPM (%)	4.9	9.5	7.5	n/a	5.6	+0.7ppt	5.0	-4.5ppt	5.3	-2.2ppt
流通・サービス	売上高	11,727	12,154	23,881	1.4	12,000	2.3	11,000	-9.5	23,000	-3.7
	営業利益	1,816	1,477	3,293	16.2	1,500	-17.4	1,000	-32.3	2,500	-24.1
	OPM (%)	15.5	12.2	13.8	+1.8ppt	12.5	-3.0ppt	9.1	-3.1ppt	10.9	-2.9ppt
合計	売上高	281,857	296,707	578,564	9.2	290,000	2.9	310,000	4.5	600,000	3.7
	営業利益	23,225	23,761	46,986	27.1	19,000	-18.2	28,000	17.8	47,000	0.0
	OPM (%)	8.2	8.0	8.1	+1.1ppt	6.6	-1.6ppt	9.0	+1.0ppt	7.8	-0.3ppt

Source: Nippon-IBR based on FY21 & FY22 Earnings Results Materials published by Daido Steel

中期経営計画(FY21-FY23)進捗状況

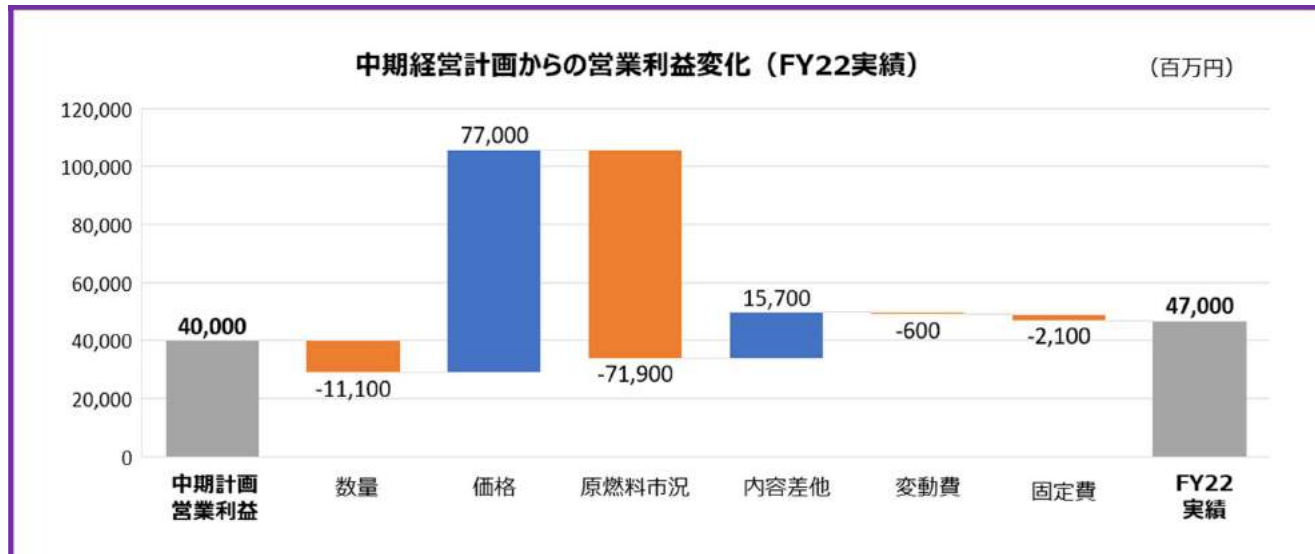
FY23 は現中計の最終年度に当たる。固定費削減努力および原材料・エネルギー価格の高騰を反映した販売価格は正により、中計の営業利益目標であった40,000百万円以上を1年前倒しでFY22に達成した。さらに、同社が戦略製品と位置付ける自由鍛造品や高機能ステンレスを中心に内容構成が大きく改善したことは注目に値しよう。その結果、FY22のROEは中計の目標値である8%を上回る10.4%を達成した。

一方で、FY23までにDEレシオを0.5倍にまで引き下げるといった目標は未達となると思われる。現在も継続するエネルギー・原材料価格高騰により、同社の運転資金は急減し営業キャッシュフローが影響を受けた。そのため短期借入金で運転資金を確保した結果、中期目標である0.5倍レベルに対して、FY23のDEレシオは0.65倍に留まる見込みである。

また現中計では、最終年度までに政策保有株式を、みなし保有株式も含め純資産の20%以下にまで削減する目標を掲げているが、FY22末時点で純資産405,479百万円に対し、政策保有株（みなし保有株式分を除く）は17.7%にまで縮減されている。売却で得られた資金については、カーボンニュートラルに向けた投資に積極的に活用する。

中期計画目標 (FY21~FY23)				
	FY23 中期目標	FY22 実績	FY23 計画	進捗状況
営業利益 (百万円)	40,000	47,000	47,000	FY22で達成
自己資本利益率 ROE (%)	8.0	10.4	8.4	FY22で達成
D/Eレシオ (倍)	0.5	0.64	0.65	有利子負債増加。目標値に届かず
投資 (百万円)	85,000	-	90,000	成長分野への戦略投資を推進
鋼材売上数量 (トン)	1.2mil	1.085mil	1.129mil	自動車関連の需要減で届かず

Source: Nippon-IBR based on Daido Steel's FY22 earnings results presentation



資本政策

同社の資本政策の中心は、以下に挙げる戦略的投資やカーボンニュートラルに向けた投資などの成長投資と配当金の3つになる。現中計期間中に、投資額として900億円を投下する計画である。成長投資は主に銀行借入れと政策保有株の売却益を充てる。FY23には、事業ポートフォリオ改革やコスト・生産性改善などの戦略投資、カーボンニュートラル関連、IT関連投資額約32,900百万円、減価償却費用は26,800百万円を予定している。

1. 設備投資：同社は 1) 事業ポートフォリオの改善、2) コストおよび生産効率の向上を戦略的投資の焦点としている。FY23 には、同社がグローバル市場で約 40%のシェアを持つ高機能ステンレス鋼や半導体製造装置用ステンレス鋼、高合金素材の製造能力増強のため、知多第 2 工場における二基の真空再溶解炉（VAR）に約 5,200 百万円の設備投資を予定している。FY22 の設備投資額は約 24,300 百万円、減価償却費用は約 26,100 百万円であった。
2. カーボンニュートラルに向けた投資：同社は 2022 年 12 月 19 日に開催した ESG 説明会において発表した「Daido Carbon Neutral Challenge 2030」のもと、脱炭素社会への貢献に向け ESG 経営へと舵を切った。同社は 2030 年までに CO2 排出量(Scope 1 および Scope 2、単体ベース) 約 100 万トンであった 2013 年対比で 50%削減、2050 年には実質ゼロ（カーボンニュートラル）にまで削減を目指す。
3. 株主還元：同社は現時点で年間配当以外の株主還元策は公表しておらず、年間配当は当期純利益の 30%を目安としている。FY22 の年間配当金は好決算を受け一株当たり 200 円の予想を上回る、一株あたり 230 円であった。FY23 の予想配当金は一株あたり 230 円で、FY23 の業績予想に基づく配当性向は 30.6%となる。

GENERAL DISCLAIMER AND COPYRIGHT

This report has been commissioned by Daido Steel Co., Ltd. (the Sponsor) and prepared and issued by Nippon Investment Bespoke Research UK Ltd (Nippon-IBR), in consideration of a fee payable by the Sponsor. Fees are paid on delivery of the report in cash without recourse. Nippon-IBR may seek additional fees for the provision of follow-up research reports and associated IR services for the Sponsor but does not get remunerated for any investment banking services. We never take payment in stock, options, or warrants for any of our services.

Accuracy of content: *All information used in the publication of this report has been compiled from publicly available sources that are believed to be reliable, however Nippon-IBR does not guarantee the accuracy or completeness of this report and has not sought for this information to be independently verified. Opinions contained in this report represent those of the Nippon-IBR analyst at the time of publication. Forward-looking information or statements in this report contain information that is based on assumptions, forecasts of future results, estimates of amounts not yet determinable, and therefore involve known and unknown risks, uncertainties and other factors which may cause the actual results, performance, or achievements of their subject matter to be materially different from current expectations.*

Exclusion of Liability: *To the fullest extent allowed by law, Nippon-IBR shall not be liable for any direct, indirect, or consequential losses, loss of profits, damages, costs, or expenses incurred or suffered by you arising out or in connection with the access to, use of or reliance on any information contained on this note.*

No personalised advice: *The information that we provide should not be construed in any manner whatsoever as, personalised advice. Also, the information provided by us should not be construed by any subscriber or prospective subscriber as Nippon-IBR's solicitation to effect, or attempt to effect, any transaction in a security. The securities described in the report may not be eligible for sale in all jurisdictions or to certain categories of investors.*

Investment in securities mentioned: *Nippon-IBR has a restrictive policy relating to personal dealing and conflicts of interest. It does not conduct any investment business and, accordingly, does not itself hold any positions in the securities mentioned in this report. However, the respective directors, officers, employees, and contractors of Nippon-IBR may have a position in any or related securities mentioned in this report, subject to its policies on personal dealing and conflicts of interest.*

Copyright: *Copyright 2023 Nippon Investment Bespoke Research UK Ltd.*

For further enquiry, please contact:

Nippon Investment Bespoke Research UK Ltd

118 Pall Mall

London SW1Y 5EA

TEL: +44 (0)20 7993 2583

Email : enquiries@nippon-ibr.com



Nippon Investment Bespoke Research UK Ltd (formerly known as NIB Research UK Ltd.) is registered in England and Wales (9100028) and is authorised and regulated by the Financial Conduct Authority <FRN: 928332>.